

V 教育課題

第10分科会

健

康

■ 研究課題 ■

たくましく生きる心と体を育む健康教育と校長の在り方

分科会の趣旨

社会環境・生活環境の変化は、人々の生活様式に大きな影響をもたらしたばかりでなく、子どもたちの心身への影響も大きく、体力・運動能力の低下をはじめ、ストレスや肥満傾向の増加、生活習慣病への危険性の高まりなど、様々な健康問題を引き起こしている。また、日常生活が便利になったことにより、基本的な生活習慣や食生活の乱れなどの問題も生じている。

こうした状況の中で、子どもたち一人一人に健康についての関心を高め、健康であることの意義を認識させるとともに、自らの健康を適切に管理し改善する能力を培うことは重要な課題である。

また、子どもたちが健全な食生活を営むことは、健康で豊かな人間性を育んでいく基礎となることはもちろんのこと、今後とも、我が国が活力と魅力にあふれた国として発展し続けていく上でも大切であり、食育の重要性が大きく叫ばれるゆえんでもある。

これらのことを踏まえ、学校での教育課程における指導とともに、各家庭やPTA組織及び地域の役割を明確にするなど、学校・家庭・地域の密接な連携・協力が必要と考える。

本分科会では、これからの時代を生きる子どもたちが、困難に直面した時も、自らそれに立ち向かっていける知力と体力を身に付け、たくましく生き抜いていくことを目指す健康教育や食育を推進するための具体的方策を明らかにする。

リーダーシップの視点

(1) 心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

朝食をとらない、自分で起きることができないなど、子どもたちの体の変調が問題視されている。

このような状況にあって、食事、運動、休養、睡眠などの重要性を理解し、自らの基本的な生活習慣を見直すことや、心と体の密接な関連性を理解し、様々な欲求やストレスに対して、状況に合わせて適切に対処できる力を育てることは重要な課題である。さらに、生活習慣病や基本的な感染症に関する知識をもち、個人でできる予防手段を講じることができるなど、自分の体への関心を高め、生涯にわたって健康を維持できる能力を育む必要性が叫ばれている。

心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

(2) 望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

メンタルヘルスに関わる課題やアレルギー疾患など子どもの心と体に関する様々な健康問題が生じている。さらに、子どもたちの食生活において朝食をとらない、偏食、孤食といった課題が生じており、生活リズムを身に付けさせることや生活習慣病を予防するために、正しい食に関する知識と望ましい食習慣を育むことが大切である。

食育の指導に当たって、養護教諭や栄養教諭の主体的な関わりとともに、全教職員それぞれの役割を明確にし、相互の効果的な連携と取組の体制確立のために、校長が果たすべき役割と指導性を究明する。

健やかな心身を育成する健康教育の推進と校長の指導性

釧路市地区 釧路市立桜が丘小学校 室 山 俊 美

I 趣 旨

生活環境、生活習慣の変化により、子どもたちの健康、体力面で様々な問題が指摘されている。そのため、健康問題により良く対処できる能力・態度を身に付ける健康教育・学習が極めて重要である。そして、健康教育・学習により、生涯にわたる心身の健康の保持増進に必要な知識、能力、態度及び習慣を身に付けることを通して、たくましく生きる意思と意欲、価値観を形成するなど「生きる力」を育むことが求められている。

学校における体育・健康に関する指導の充実を図るためには組織的な指導体制の整備とともに、教職員一人一人の指導力の向上が求められている。そのためには、校長の明確なビジョンとリーダーシップの発揮が期待される。

そのような中、釧路市において、平成25年3月に「釧路市教育推進基本計画」が策定された。その基本方針の中で「健やかな体の育成」については、「体力・運動能力の向上」、「健康・防災・安全教育の推進」の基本方針が示されている。さらに、それぞれの基本方針には施策の方向として「体育活動の充実」、「食育の推進」、「健康教育の推進」、「防災・安全教育の推進」が掲げられ、これは本研究課題と関連する視点である。各学校ではこれらの方針、方策、施策の方向について共通理解を図りながら、地域の特色を生かした取組を行っている。

本校長会は今年度より3年続けて本分科会で提言する機会を得て、3か年の研究推進計画を立案した。3年計画の初年度である本年度は、釧路市内の小学校における実態について把握し、課題と方向性を示したい。

II 研究の概要

1 基本主題

「健やかな心身を育成する健康教育の推進と校長の指導性」

2 研究推進計画（年次計画）

(1) 平成26度

- ① 研究の年次計画、基本主題、研究推進計画策定
- ② 健康教育、食育教育についての実態調査

(2) 平成27年度

- ① 各校の研究推進計画構築、実践
- ② 食育を中心とした実践研究

(3) 平成28年度

- ① 健康教育の成果と課題の明確化
- ② 校長の指導性の明確化

3 今年度の調査研究

(1) 各校の健康・体力づくりの現状と課題についての一次調査実施（平成25年9月実施）

- ① 平成24年度全国小学校長会研究紀要における調査と同じ20項目で実施

小学校校長会提言にかかわるアンケート

【問1】

あなたの学校では、児童の健康・体力づくりについてどのような取組をしていますか。（3つ以内を選択してください）

- ア 全体計画および年間指導計画の作成・実施
- イ 生活実態調査や新体力テストなどをもとにした健康・体力づくりの対応策の設定・実施
- ウ 教科体育（外部講師の活用などを含む）の指導や評価の充実
- エ 体育行事の充実
- オ 業前・業間時間や放課後などを利用した健康・体力づくり
- カ 学校保健安全委員会などを活用した保護者、校医など関係機関との連携
- キ 基本的な背活習慣や望ましい食習慣などの啓発に向けた家庭・地域との連携
- ク 栄養教諭等を中心とした校内指導体制の充実
- ケ その他

ケ その他を選ばれた方は、内容を記述してください。

【問2】

あなたの学校では、健康・体力づくりを進めるにあたってどのような課題がありますか。（3つ以内を選択してください）

- ア 健康・体力づくりに食育を含めた全体計画と各教科にわたる横断的な指導計画の作成
- イ 生活実態調査や新体力テストなどをもとにした健康・体力づくりの対応策の設定
- ウ 健康・体力づくりについての教職員の問題意識の向上
- エ 教科体育の指導法の工夫改善
- オ 健康・体力づくりのための時間の確保
- カ 健康及び体力を向上させるための施設・設備の充実
- キ 体力・運動能力の二極化を改善するための家庭や地域への働きかけ
- ク 業間運動や体育的行事の充実
- ケ 学校保健安全委員会の充実をはじめとした家庭、地域、関係機関との連携
- コ 食育の推進を図るためのリーダーの育成
- サ その他

サ その他を選ばれた方は、内容を記述してください。

- ② 評価尺度は、4が「満足」、3が「ほぼ満足」、2が「やや不満」、1が「不満」として設定

(2) 一次調査の結果

- ① 健康・体力づくりに関する全体計画及び年間指導計画の作成は比較的進んでいて、その

結果各教科にわたる横断的な計画の整備が必要だと感じている学校が多い。

- ② 生活実態調査や新体力テストなどをもとにした健康・体力づくりの対応策の設定、実施は多くの学校で行われ、児童の実態を確実に把握する必要性を感じている学校が多い。
- ③ 業前・業間時間や放課後などを活用した健康・体力づくりは60%以上の学校で行われているが時間の確保が難しいという課題を持っている。また、体育的行事を工夫する取組や教科体育の指導や評価の取組が低い数値である。このことから健康・体力づくりの場として体育的行事や教科体育の授業より業前・業間時間や放課後などに行う健康・体力づくりの時間に比重が置かれていることが伺える。
- ④ 教科体育の指導法の工夫・改善とともに、健康・体力づくりについての教職員の問題意識の向上を課題としてあげる学校に比べ、取組の中で教科体育の指導や評価の充実をあげている学校が少ない。このことは、実際に体育の授業を行う教師の資質・能力や問題意識、校内体制、教育課程の編成等の様々な問題に起因していると考えられる。
- ⑤ 基本的な生活習慣や望ましい食習慣などの啓発について家庭・地域との連携は50%の学校が取り組んでいる。
- ⑥ 課題として家庭・地域・関係機関との連携をあげる学校も少なくなく、連携は行われているが、質的な向上、充実が求められている。
- ⑦ 栄養教諭等を中心とした校内指導体制の取組は栄養教諭の数的な問題もあり、低い数値となっている。

(3) 再調査の実施

1次調査で特徴的な傾向が見られた次の視点からの再調査実施（平成26年5月実施）

- ア 全体計画、教育課程の編成
- イ 校内体制の整備、分掌組織の活性化
- ウ 児童の実態分析を生かした対応策の構築
- エ 授業の工夫改善、校内研修の充実
- オ 教職員の意識高揚
- カ 学校における食育の推進
- キ 家庭生活における食習慣、生活習慣の改善

4 考察

【リーダーシップの視点1】

心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

(1) 考察の視点

次の視点から、釧路市内の実態と課題を考察する。

- ① 健康教育の全体計画とそれらを推進する校内体制の構築、活性化
- ② 健康教育に取り組む教員の意識高揚と体育

授業の工夫改善

③ その他

(2) 考察

① 健康教育に関する全体計画と校内体制の活性化

【取組】

- ア 多くの学校で学校経営の中に自校の健康教育の目標や学年の重点を設定してる。
- イ 多くの学校で教育課程に健康教育を推進するための健康・体力づくりに関する全体計画を作成している。
- ウ 体力テストの総合評価における数値目標の達成を目指し、全校的に様々な体育的活動に取り組んでいる。
- エ 児童の健康・体力づくりを推進する係が校務分掌に位置付いている学校が多い。
- オ 児童の実態調査や体力づくりの実施計画を立案する係が分掌に位置付いている学校が多い。
- カ 健康調査や体力テストの実施など健康・体力に関する児童の実態把握がなされている。
- キ 校内研修で体育の指導技術のスキルアップ研修を行っている。

【課題】

- ア 健康教育を推進していく上で、学年の方針、重点が設定されているが、それが系統的なものになっていない。
- イ 教科、特別活動、総合的な学習の時間等の関連を図った横断的な指導計画の作成が不十分である。
- ウ 朝学習、朝読書、朝会と過密スケジュールの中、業前、業間等の体育的活動の設定は難しい。
- エ 児童の実態を交流する場があるが、課題の分析から次年度の具体的な対応策に反映させることが不十分である。
- オ 健康教育についての学校評価を行い、児童、保護者、関係機関などの意見や評価を踏まえた改善策の検討が不十分である。
- カ 自校の実態を踏まえて、健康教育の具体的な目標を明確にし、校内研修などで共通理解を図ることが必要である。

【校長の指導性】

学校経営の基本方針、重点に健康教育を位置付け、健康教育の全体計画を作成している。また、釧路市教育推進計画の数値目標を提示するなどして、目標の明確化を図った。校務分掌に健康・体力づくりを推進する係を具体的に位置付け、さらには子どもたちの実態の分析結果を会議、研修等で取り上げるなど全校的な体制づくりを行った。

② 健康教育に取り組む教職員の意識高揚と体育授業の工夫改善

【取組】

- ア 万歩計を活用した取組や業間や放課後の活動や日常的な運動への啓発を行うなど、児童が興味関心を高める工夫を行った。
- イ 校内研修で体育の指導技術のスキルアップ研修を行っている。
- ウ 体力テストの結果から、体育授業の中で体力づくり（コーディネーショントレーニング）を進めている。

【課題】

- ア 自校の実態を踏まえて、健康教育の具体的な目標を校内研修などで共通理解を図ることが必要である。
- イ 教員一人一人が健康教育の目標を意識した教育活動に当たることが必要である。
- ウ 体力向上を図る授業づくりの工夫などを内容とした校内研修が必要である。
- エ 体育授業で、高めたい運動能力、体力を取り上げ、全校で共通あるいは系統的に準備運動に取り入れるなどして全校的に体力向上に取り組むことが必要である。
- オ 体力テストの結果を踏まえた体育の授業づくりは学級によって（教師によって）差が大きい。

③ その他

- ア 体力テストの結果を保護者に知らせ、6年間の変容から、家庭との連携による運動習慣の必要性への理解を深めた。

【校長の指導性】

校内研修で体育授業の指導技術スキルアップ研修を行うよう、分掌に働きかけた。また、子どもの実態や諸調査、体力テストの結果を保護者へ周知したり、PTAの会議等の機会に家庭との連携を働きかけたりして、教員の意識高揚を図った。

【リーダーシップの視点2】

望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

(1) 課題

① 学校における食育教育の推進

- ア 食に関する指導の学年別指導計画や横断的な指導を行うために教科、特活、総合等の関連を図った教育課程を編成する。
- イ 家庭と地域との連携に具体的な食育指導を実践する。
- ウ 常勤の栄養教諭がいないので、訪問指導が少ない。

② 地域、家庭と連携した食習慣の改善

- ア 食生活、生活習慣改善のための関係機関との連携を図る。

III ま と め

本校長会は今年度より3年続けて本分科会で提言する機会を得て、3か年の研究推進計画を立案した。3年計画の初年度である本年度は、健康教育の推進について釧路市内の小学校における実態を把握し、課題と方向性を示すべく調査、研究を進めてきた。

「釧路市教育推進基本計画」では基本方針や基本方策、さらに具体的な数値目標も示され、釧路市内全ての小学校でこれらの具現化に向けて今後さらに取組を行っていくことになる。

今年度の成果と課題は次のとおりである。

1 健康教育に関する全体計画と校内体制の活性化

学校の経営方針に基づく健康・体力づくりの全体計画や指導計画はほぼ整備されている。今後は、教科等を横断する指導計画や6年間を通した系統的な指導計画の整備が必要である。

また、校務分掌の中に健康、体力づくりを推進する係が位置付いていて、実態調査や体力テストを計画し、推進する校内体制が整っている。今後は、それらの分析結果からの課題を全校的に共有し、次年度の改善策に生かすサイクルをどう機能させるかが課題である。

2 教職員の意識高揚と体育授業の工夫改善

児童の実態や健康・体力面での課題を踏まえた体育活動の工夫をするなど、意識の高さが一部で見られた。また、体力テストの結果を保護者に伝え、6年間の変容から家庭と連携した生活習慣の改善への取組を行った。今後は、健康・体力の課題を校内研修で取り上げる、さらに学級経営案にしっかり位置付けるなどの方策を講じ、教職員の意識の高揚を図る必要がある。

校内研修で授業の工夫について取り組んだ学校も見られるが、全体的には体育授業の工夫改善への取組は不十分である。校内研修で取り上げたり、関係機関との連携を通して全校的に体育の授業の工夫改善につなげたりしていかなければならない。

3 望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実

次年度の研究で取り組むため、今年度は各校の課題把握に努めた。各校では食育を含めた健康・体力づくりの全体計画、指導計画が整備されている。今後、教育課程における横断的な指導計画の作成、栄養教諭を含めた外部機関との連携、生活習慣の改善と関連した食育指導の実践研究が必要である。